

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	胡 綾及
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
不健全完全主義の瑣末な努力のメカニズムと適応性に関する検討			
論文審査担当者			
主 査	教授	岩 永 誠	
審査委員	教授	坂 田 桐 子	
審査委員	教授	高 谷 紀 夫	
審査委員	准教授	杉 浦 義 典	
〔論文審査の要旨〕			
<p>完全主義は、優れた成果を上げるための姿勢として美德とされることが多い。しかし、完全主義者の中には、高すぎる目標を設定し、それを達成するために不必要な努力を重ねるために、結果として十分な成果をあげることができないばかりか、自己に対して絶望感を抱き、抑鬱状態に至ることもある。このような完全主義は不健全完全主義と呼ばれ (Stoeber & Otto, 2006)、精神的不健康に結びつく不適応な行動特性だと言われている。不健全完全主義の特徴として、ミスを犯さないよう必要以上に細かな点にまでこだわるという瑣末な努力がある。本研究は、不健全完全主義が、失敗して目標に達することができなくても難しい課題に再挑戦し、瑣末な努力を繰り返す機序を解明し、不適応性との関連を検討することを目的としている。</p> <p>本論文は6章から構成されている。第1章では、完全主義研究を展望し、不健全完全主義が課題遂行に失敗しても高い目標を持ち続け、瑣末な努力を繰り返すことに関連する動機づけや成果の評価、失敗の帰属様式を含めた仮説モデルを提唱している。第2章(研究1)では、完全主義の下位因子である完全主義的努力と完全主義的懸念がともに高いことが、不適応である不健全完全主義に結びつくことを確認している。第3章(研究2)では、完全主義の下位因子により動機づけに及ぼす間接効果の検討を行い、完全主義的努力が自己価値を介して達成動機を高めること、完全主義的懸念が失敗の反芻を介して失敗回避動機を高めることを明らかにした。第4章(研究3-1~3-3)では、不健全完全主義が瑣末な努力を引き起こすことに関する実験研究を行っている。研究3-1では情報収集に関する検討を行い、不健全完全主義が重要でないキーワードについても情報収集し、努力が成果に結びつかない瑣末な努力をしていることを明らかにした。研究3-2と3-3では、立体図形作成課題を用いて、瑣末な努力の測定を行なった。その結果、不健全完全主義は困難な課題を選択しやすいこと、丁寧に作業を行うことで作業時間が長引くことを明らかにした。作業内容を評価したところ、不健全完全主義が過剰に丁寧に作業を行なっていることを明らかにしている。第5章では、不健全完全主義の不適応性についての検討を行い、不健全完全主義は完成できなかったことに対してより否定的に評価することや、それを自己のせいにし、失敗を反芻しがちになることを明らかにした。第6章の総合考察では、仮説モデルの検証を行い、不健全完全主義が瑣末な努力を繰り返すモデルを提案するとともに、本論文の学術的意義と課題について論じている。</p>			

本論文は、(1)完璧にやり遂げる完全主義でも完全主義的懸念の高さが不適応に結びついて
いること、(2)完全主義的努力が達成動機を、完全主義的懸念が失敗回避動機を高めて、瑣末
な努力を継続的に高めること、(3)不健全完全主義は成果を過小評価すること、(4)成果の過小
評価が失敗の反芻を引き起こし、失敗回避動機を高めること、を明らかにし、不健全完全主義
が失敗をしても高い目標を設定し続ける機序を明らかにし、完全主義の持つ病理的な側面を規
定するメカニズムを解明した点は、学術的貢献度の高い論文と言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるもの
と認められる。